

響想の社会をめざして

阪神・淡路大震災30周年事業

阪神・淡路大震災から30年を迎えるにあたり、NVNADでは、2つの行事を通してこれまでの活動を振り返り、今後の展開を考えて参りました。1つ目の行事は、1年間をかけて8回開催した連続シンポジウムでした。毎回、災害食、子ども、障害者、ぼうさい探検隊、被災地のリレー、伝承といったテーマを1つずつ採り上げて、その分野で活躍されている方々をお招きして理事と一緒に課題や展望を語っていただきました。日本損保協会様より協賛、各種団体からの後援、および、西宮市との共催など皆様に支えて頂くことができ、無事8回を終えました。各回の記録はNVNADのホームページからご覧頂けます。今後は、さらにテーマを絞り、少人数のゼミ形式でじっくりと掘り下げていきながら、NVNADらしい活動へと結びつけていく計画です。また準備が整いましたらご案内いたしますので、ご参加頂ければと願っております。



もう1つの行事は、被災地交流会でした。コロナ前はその時々にお世話になった被災地から皆様をお招きして追悼行事に参加していただきましたが、阪神・淡路大震災から30年を迎えるにあたり、国内外の被災地からたくさんの方々をお招きし、当時の様子、復興の姿、そして救援や復興にボランティアとして関わらせて頂いたことへの評価について皆様からプレゼンをしていただく形式で交流会を開催しました。今回は、大阪大学人間科学研究科と連携して立ち上げている「災害ボランティアラボ」や理事長が主宰している「援原病研究会」との共催としましたので、ボランティアのいい面だけでなく、ボランティアが関わるほどかえって被災地が困ってしまう現象(援原病)についても忌憚なくお話しいただき大いに学ぶところがありました。今後の活動に大いに活かしていきたいと思います。

シンポジウムも交流会も内容は多岐に及びこれから活動に参考になることばかりでしたが、内容に加えて何よりありがたかったのは、これまでお世話になりました国内外の被災地から、今もたくさんの人々に支えて頂いていることを実感させて頂いたことでした。阪神・淡路大震災当時からお付き合いのある方々、中越地震、中越沖地震といった20年近く前にお付き合いの始まった皆様、14年になる東日本大震災で被災された皆様、丹波や吹田といったお近くの皆様、遠く中国四川省の皆様、そしてまだまだ復旧途上で大変な生活を強いられておられる能登半島の皆様との交流は何にもまして貴重な財産です。さらに、こうして交流会を開催させていただきますと、各被災地の皆様どうしがそれぞれに関係を築いてくださり、ネットワークがますます濃密なものとなっていましたことを実感しました。NVNADとしては、皆様から授けて頂いた”財産”を大切にしながら、今後とも活動を深めていきたいと思います。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

- contents -

- P1~2 阪神・淡路大震災30周年事業/Vision1.17/第6回、8回シンポジウム
- P3~4 1.17追悼式生放送/能登半島地震現地ボランティア/出前プレーパークinのと
- P5~6 能登豪雨支援活動/丹波豪雨10周年/防災機材倉庫/親子でまち探検/こども防災探検隊
- P7~8 避難所運営訓練/大阪マラソン2025&EXPO/子ども防災クラブ
- P9 ココロープ/佐用町桜まつり/3.11被災地交流会/福島県郡山市訪問/
- P10~12 Nうごき・Nごよみ/会員・寄付者・募金者のみなさま/支援のお願い/編集後記



Vision 1.17

阪神・淡路大震災に遭遇しましたのは、私が33歳、神戸大学に初めての職を得て教員として働き出したばかりの頃でした。あれから30年が経過し、再来年には定年退職を迎えます。社会人として過ごしたほとんどの時間が阪神・淡路大震災とともにありました。ということは、NVNADとともにあった30年でした。果たして何か社会に役立つようなことができたのだろうかと振り返りますと心許ない限りです。

ただ、長い時間をかけて、ようやく自分たちなりの災害対応のあり方にたどり着きつつあるようにも思っております。それは、大仰に構えて大所高所から災害を見るのではなく、また、有効性や効率性の追求に邁進するのではなく、被災された皆様の傍にそっと佇んで、その場その場で被災者を中心にしながら一緒に考え方活動していく姿勢ではなかったかと思います。もちろん、それでは専門家らしく知見を提示するなどということもないでしょうし、成果らしい成果も目に見えてあるわけではありませんから資金も思うように調達できず、全力で頑張ってくだ

さっているスタッフの皆さんはもとより、ずっと支えてくださっている会員の皆様にもご心配ばかりおかけする状態が続いて参りました。今30年を振り返りましても、このような頼りない歩みをずっと支えてくださっている皆様に感謝の気持ちが募るばかりです。

ただ、あの朝、目にした光景、感じた風、鳴り止まない緊急車両の音、人々の叫び声・・・30年を経た今もありありと思い出されます。あの日に出会ったことに何一つお応えできていないように思えてなりませんが、これからもあの日の思いを胸に、私たちなりに動いていきたいと思います。引き続き、ご支援を頂戴できれば幸いです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



(NVNADの前身であるNVNの阪神・淡路大震災発災当初の活動風景)

(NVNAD理事長 涩美公秀)

第6回NVNADシンポジウム

11/4(月祝)に西宮市民会館にて「大人が子どもを守ること 子どもが自分を守ること」をテーマに「第6回NVNADシンポジウム」を開催しました。理事の米山清美がコーディネーターとなり、パネリストには、石川県、大分県、岩手県で被災された保育所の園長、所長の皆様、村役場の職員の方にオンラインで参加いただき、被災当時の状況や現在の取り組みについてお話しいただきました。またコメンテーターとして関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・准教授の羅 貞一先生にもお越しいただき、韓国と日本の違いや、韓国の子どもの防災の取り組みについてお話しいただきました。また米山からは防災アニメ「ももたろう」とプレーパークの事例を活用し、大人が子どもをいかに守ればいいのか、子ども自身の災害時の行動や考え方についてお伝えさせていただきました。今後も子どもが安心して過ごせる社会となるようこれからも活動をしていきたいと思っています。



第8回NVNADシンポジウム

2/9(日)に西宮市総合福祉センターにて「第8回NVNAD最終シンポジウム」を開催しました。当日は「まちごと防災のすすめ」のテーマのもと、鼎談(ていだん)の形で理事長の涩美 公秀が進行役となり、対談者には、石塚 裕子様(東北福祉大学 教授)、矢守 克也(NVNAD理事、京都大学防災研究所教授)にお越しいただき、多様化、激甚化しつつある昨今のそしてこれからの災害について、どのように考え方についてお話ししていくべきなのか、第1回～第7回までのシンポジウムで扱った様々なテーマを振り返りつつ、会場にお越しの皆さまと一緒に共有、お話をさせていただきました。当団体は震災を機に発足し、多くの方の支えもあり今まで30年間活動を続けることができました。これまでの活動で培った考え方や経験、技術などを、今後も多くの方と共有し共に考えさせていただき、安心し誰一人取り残されない社会につながる活動の一助になれましたらとても嬉しく存じます。



1.17追悼式生放送

1月17日、西宮震災記念碑公園にて行われた追悼式に参加しました。また参加が難しい方にも追悼式に参加いただけるようにオンライン(youtube)にて生配信を行いました。

阪神・淡路大震災より30年を迎え、震災当時から沢山の方々の様々な出来事や思いが重なりながら現在があると改めて感じています。当団体も多くの方々のお支えのおかげで今まで活動を継続して行う事ができております。これからも被災地の支援や防災啓発など、地域の皆さんとの交流を大切に活動してまいります。(当日の動画はyoutubeにアップロードしています。)



(youtube当団体ページ)

==能登半島地震現地ボランティアwith関西学院大学==

5月、6月、10月、2月の計4回、兵庫県西宮市にあります関西学院大学ヒューマン・サービス支援室と連携して、能登半島地震の被災地である七尾市中島町で、交流を中心に支援活動を行いました。JR大阪駅からJR金沢駅まで特急サンダーバードで移動し、JR金沢駅からは大学に借りていただいた貸切バスに同乗させていただき、被災地に向かいました。バスの中では、震災直後の道路事情を中心に、多くの被災家屋の屋根には地震で瓦が壊れたズレたりして応急処置のためにブルーシートが張られていたことなど、震災直後の状況を参加学生に説明させていただきました。震災から時間が経過しても、ご自宅の片付けや改修工事がまだ途中のお宅も多くあり、時間の経過とともに、被害は外観からはわかりにくくなってきていますが、復興にはまだまだ時間が必要だと感じました。



現地での主な活動は、まず、中島仮設団地横にある新町会館をお借りして、地元の方々や仮設にお住いの方々にお集まりいただき、茶話会を中心に、写真立てづくりや流しそうめん、将棋やオセロなど、楽しみながら交流できるプログラムを学生さんが主体的に取り組んでくれました。回を重ねるごとに、参加者も増えてきて、これまでお知り合いでなかった方々同士のつながりも新たに生まれるなど、うれしい場面もありました。



また、豊川分館では、豊川地区の皆さんと「震災当時のこと」や「日頃の備え」、「地域の魅力」などをテーマに、これまで計3回交流会を開いていただいている。我々がボランティアで行くことで、地元の方々が少しでも元気に、笑顔になってもらえたとの思いですが、我々ボランティアが反対に、震災や地域のつながりなど多くのことを学ばせていただく機会となっています。これからも継続して交流を続けさせていただければと考えています。

・出前プレーパークinのと(七尾市、輪島市)

「子ども達が思いっきり遊び、それを見て大人も笑顔になる」ことを目的にした被災地での出前プレーパーク事業ですが、能登半島地震の被災地では昨年度末から子ども家庭庁の補助も受けて実施してきました。昨年の夏休みには、阪神淡路大震災で西宮の子ども達がお世話になった輪島市青年会議所にも子ども達と一緒に募金を届けました。西宮の子ども達と一緒に行き運営するこの事業は、被災地の子ども達と着実に繋がり、運営に参加した子ども達にも「支援することの意義」の種を撒いたのではないでしょうか。前号以降の報告です。夏休みに参加した小学生たちは被災地の状況を自身の目で見て写真を映し、出前プレーパークの様子と共にそれらを夏休みの自由課題としてまとめ、市内3校の小学校に掲示されました。私はそれらを様々な場でアピール。2025年2月末に輪島市で行われた「遊び場づくりで繋がる能登半島ミーティング」(日本冒険遊び場づくり協会主催)にもコピーを持参し、出前プレーパークの報告をしました。「出前プレーパークinのと」は2025年3月末にも輪島市と七尾市で実施しましたが、今回は夏休みの時より1カ所増え4か所の保育園や小学校で遊び場を開設しました。

・3月26日(火)かわい保育園(輪島市河井町)

園庭は昨年9月の豪雨時の改修工事のため使えず、ホールや廊下を使った遊びになりましたが、1歳児から5歳児の子ども達は本当にのびのびと楽しそうに遊びました。今回は園に支援に入っている他団体も手伝いたいとのことで、「子どもを」遊ばせるのではなく「子どもと」一緒に楽しむことを伝えて小学生たちと一緒に遊び場運営をしました。



(園児とさよならタッチ)

・3月27日(水)こども園ひまわり(七尾市千野町)

新園舎は昨年末に完成したものの園庭は未整備のため、向かいの第2園庭で実施しました。ここは震災で地割れをして使えませんでしたが、クラウドファンディングで改修費を募り整備されていました。この日地元の北國新聞が取材に訪れ、3月31日の朝刊に載りました。取材した記者の「このところ震災報道も少なくなっている」との言葉に「関西ではほとんど報道されていない」と返しました。



(北國新聞朝刊)

・3月28日(金)中島保育園、中島小学校(七尾市中島町)

この日はあいにくの雨模様のため、午前中の中島保育園はホールでの実施でした。「遊びを提供してくれるのは有難い、ぜひ」ということで今回の実施となりましたが、100人近い園児達がホールを訪れ、笑い声がはじける時間となりました。午後も雨で、同地区内の小学校でも、いつもの校庭ではなく体育館での実施となりました。避難所のところから繋がっている同校の放課後児童クラブの依頼でしたが、出前プレーパークのチラシは全校生徒に配布。この日からの体育館の工事も校長先生の計らいで1日伸ばしての実施となりました。持参したスマートボールやお菓子釣りも人気でしたが、ロープで西宮対中島の綱引きをしたり、西宮と中島のルールの違いを確認しながら鬼ごっこをしたり、子ども達は体育館中を走り回りました。途中のおやつは児童クラブの教室で、参加したクラブ以外の小学生にもお菓子を配っていただき、楽しいひと時を共に過ごしました。



(体育館での出前プレーパーク)

この出前プレーパーク事業は、阪神淡路大震災後1999年に西宮市内にプレーパーク(国有地プレーパーク)を作ったにしのみや遊び場つくろう会と共に開催されています。運営をしてくれる小学生もその常連で、遊びに長けた子ども達です。そんな彼らと一緒に2025年の夏休みにも、能登を訪れたいと思っています。

(NVNAD理事 米山清美)

能登豪雨災害支援活動 第1報

9月20日～21日にかけての大雨の影響により、能登半島では奥能登地域を中心に、川の氾濫や土砂崩れなど甚大な被害が発生しました。当団体は、能登半島地震の支援活動でつながった輪島市内の方々から被害状況などを情報収集しながら、9月24日、9月28日～29日の日程でボランティアメンバーと一緒に輪島市内で支援活動に向かいました。市内を流れている河原田川近くが特に被害が出ている地域だということで、その周辺のお宅で、泥のかき出し作業や家財道具の後片付け作業などを手伝いました。



能登豪雨災害街頭募金

9月29日(木)、阪神西宮駅前にて能登豪雨災害のための街頭募金を行いました。当日は多くの暖かいご支援をいただき誠にありがとうございました。被災地への報道が少なくなるなか、これから支援がとても大事になると思っています。今回、集まりました支援金は現地の活動や現地の方への直接的な寄付など、被災された方のお役に立つよう、大切に活用をさせていただきます。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。



能登豪雨災害支援活動 第2報

豪雨に見舞われた能登に向けて29日に街頭募金をさせて頂きました。NVNADでは、この募金から水害後の掃除に役立ててもらおうと高圧洗浄機を5台購入しました。お世話になっております七尾市中島の豊川公民館の皆様に受け取って保管して頂いていた5台を、本日輪島に持つて行きました。輪島はまだ泥と砂埃の中でした。



前々回訪問しました洋菓子屋さんは、近所の皆さんと片付けをされていました。まずお声掛けし、皆さんでお使い下さいと1台お渡しました。同じく前々回からお手伝いさせて頂いている別のお家は、周辺も大変な被害。今日はまだ高圧洗浄機を使える段階ではないようでした。ただ、中島の小牧に拠点を構えてずっと活動されている神戸の被災地NGO協働センターの皆さんが活動しておられ、今後もこの地域で活動を継続されるとのことでしたので3台お渡しました。NVNADも近々この地域で活動するのですが、連携させて頂いている協働センターの皆さんにお渡ししておけば高圧洗浄機を使う場面になった時にどちらかの団体で臨機応変に使えると判断しました。

最後に、輪島市社協さんを訪問し1台お渡しました。社協さんを経由して活動されるボランティアさんにお使い頂ければと思います。皆さんとても喜んで下さり、もう少し片付けが進むと高圧洗浄機を役立てて頂けると思います。ご寄付を頂きました皆さま。本当にありがとうございました。それにしても被害が大きすぎてまだまだ日数がかかりそうです。活動中の皆さんからは、1人でも多くのボランティアをという声を聞きました。NVNADも引き続き現地で活動してまいります。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(NVNAD理事長 渥美公秀)

丹波豪雨10周年

11月24日（日）、丹波市豪雨災害10周年のイベントが、丹波市前山地区で開催され、豪雨直後にも現地で活動を行ったボランティアさんと一緒に参加してきました。会場となったのは「オアシスいつせ」という元保育園だった場所で、室内に設けられたステージでは地元の女性グループによるファッションショーやマジックショーが披露され、また、当時の被害状況が写った写真をはじめ、能登半島地震でのNVNADの活動写真も一緒に展示してくださいました。また、屋外のスペースでは自作のピザ窯でピザを焼いたり、手作りのカレーやおでんなどが提供されました。いつまでも教訓を伝えていくことの大切さを改めて実感する機会となりました。



西宮校区防災機材倉庫点検

西宮市より委託を受けた、西宮市内に設置してある防災機材倉庫のうち40カ所以上の点検業務を行いました。防災機材倉庫は災害が起った際に、必要な物資が保管されている倉庫になり、万が一の際にとても役にたつ物になっております。今回の機材点検を通して、普段からの備えの大切さを改めて感じ、多くの地域で役にたつよりよい備えについて考える機会になりました。今後も災害が起った時にどうするかだけでなく、事前に何を準備しておくかについても、お伝えしていきたいと思っています。



親子でまち探検

3月1日、西宮市の高木公園にて「親子でまち探検」が開催されました。自分たちが住む町の公園にある防災倉庫や緊急貯水槽などを再確認し、場所の確認や使用方法を体験してもらうことで、災害発生時にその体験を生かそうという啓発行事です。防災倉庫内の資機材の紹介や体験と、マンホールを利用した緊急時トイレ場所と使用方法の確認、そして、NVNADの進行により参加者全員で防災クイズにチャレンジしていただきました。今回も100名ほどの参加があり、地域における防災へ関心の高さを実感しました。いざという時は勿論こない方がいいのですが、備えを大切にすることの重要さを改めて教えていただきました。土井さまをはじめ高木地区の皆さん、ご協力ありがとうございました。



こども防災探検隊

毎年恒例となっています「小学生のぼうさい探検隊」ですが、今年度は日本損害保険協会から第一次審査の事業を受託させていただきました。9月～11月にかけて週ごとに事務所に届く、「防災」「防犯」「交通安全」のテーマごとのマップデータを1枚1枚確認しながら、教育性や提案性など4つの審査項目に従って確認してきました。バラエティーのとんだ作品も多く、子どもたちの頑張りや思いなどがマップを通じて伝わってきました。



避難所運営訓練 in 西宮

11/23に夙川小学校にて、1/13に高須西小学校にて西宮市が主催する防災訓練が開催され、プログラムの一つの避難所運営訓練を当団体が企画し運営を行いました。また関西学院大学の学生にも避難所運営訓練のブースの企画に立ち会っていただき、当日は当団体と一緒にプログラムを運営しました。学生の募集にあたっては、ヒューマン・サービス支援室の皆さんに大変お世話になりました。



内容としては11/23では主に避難所運営訓練では、当団体の理事長や理事が講師となり、実際に災害が起こった際に問題になる障害者や子ども、ペットなどの避難所における問題について参加者の方と講座形式で考えるブースや災害の危険性や避難所運営を紹介・説明する展示ブース、段ボールベットやテント、簡易トイレの体験・設営、エコノミークラス症候群を防ぐ体操、避難所で火を使えない中で食べ物を温める「あったかフードボックス」の実演・体験、実際に参加者と避難所の問題や解決について考える対話ブースなど、種類にして4つのコーナーを出展しました。

1/13の避難所運営訓練では、三重県の作業療法士の萩野 創さまや調理師免許をお持ちの方の監修のもと、避難所の運動不足やストレスなどで問題になっているエコノミークラス症候群予防や障害者への対応(避難所での車いす体験やバリアフリーな避難所の作成)や、避難所の限られた物資の中での災害食調理実演と試食のコーナーを出展しました。



参加者の皆さんからは「避難所について考えたことはあまりなく、今回の体験で改めて今後の準備をする気づきになった」という言葉をいただきました。この度の避難所運営訓練の体験が、今後災害が起った際にお役にたつことを願っています。

大阪マラソン2025&EXPO

2/22～23にインテックス大阪にて大阪マラソンEXPO2025が開催され、この度、当団体は大阪マラソンのチャリティパートナーの団体のひとつに選ばれブースを出展させていただきました。当日はたくさんの方がお越しになり、大阪マラソンの盛り上がりを肌に感じました。この度のチャリティマラソンで多くの支援の輪が広がる活動にしたいと思っております。

また当団体をご支援していただいた19人のチャリティランナー様をはじめ多くのランナー様の応援のために大阪マラソン2025(2/24)に参加させていただきました。今回の大阪マラソンでは多くのランナーの方が、雪が降る寒い中で大変な思いをしながらも走り切り、その思いを多くの方が共有し同じ思いをもって活動する事の大切さを改めて感じました。最後に当団体を応援していただいたチャリティランナーの皆さん、大阪チャリティマラソン事務局や関係者の皆さん、各団体の皆さん、当日参加くださったボランティアの皆さんに改めて深くお礼を申し上げます。今後も皆さんが安心して暮らせる社会になるため、防災という観点から活動を続けていきたいと思います



子ども防災クラブ(2回～4回)

10/19(土)、高木小学校にて、当団体スタッフと学生、社会人リーダーが集まり、第2回子ども防災クラブ(Dクラブ)の活動を行いました。今回は、学生リーダーが考案した防災リュックの準備とオリジナルの避難経路の作成をプログラムにしました。当日は各班に分かれてもらい、防災リュックのプログラムでは、災害発生後や避難所に着いたときに何が必要になるかを考えもらいました。必要と思ったものの重さを水の入ったペットボトルで代用しリュックに入れ、実際の重さを体験してもらい、重すぎても動きにくいや軽すぎると必要なものが足りなくなることを考えてもらいました。



避難経路作成では、生活中に大雨による避難指示が発生したと想定、ハザードマップや地域のマップを確認しながら安全な避難経路を考えてもらい発表してもらいました。最初に考えた避難経路では実際に危ない場所が多くあり、危険な箇所を伝えた後に再度考えてもらうと、より安全な避難経路を作成することができ、前もって避難経路を考えておくことの大切さを体験してもらいました。防災リュック、避難経路のプログラム中は参加した子ども達は自分ごととして、真剣に考え、班のみんなと楽しく話し合いながら参加してくれました。

12/14(土)、高木小学校にて、当団体スタッフと学生、社会人リーダーが集まり、第3回子ども防災クラブ(Dクラブ)の活動を行いました。今回は、学生リーダーが考案した、災害発生後のストレス軽減を目的としたアロマオイルとフェルトを活用した小物入れの作成と、手や足など体に障害がある人のために考えだされたパラリンピックの正式種目である「ボッチャ」体験を行いました。当日は各班に分かれて



もらい、「ボッチャ」を体験する中で障害者の方への関心を持ってもらい、災害が発生した際に、特に困難に遭ってしまう災害弱者といわれる方達への認識を持ってもらいました。また小物入れ作成では、避難後のストレスはとても問題であり、今回は香りを楽しむことによってストレス軽減をすることを体験してもらいましたが、各自が思う落ち着けるものを普段から準備しておくことの大切さをお伝えしました。



そして、3/1(土)、高木北小学校にて、当団体スタッフと学生・社会人リーダーが集まり、第4回子ども防災クラブ(Dクラブ)の活動を行いました。今回は、今年度最後のDクラブの活動になり、第1部は1年間の活動を振り返り、第2部は慣れない避難生活や物資の不足から、不安やストレスを抱えながら避難をされている方達への支援の重要性を伝え、その際のボランティア支援のひとつとして足湯ボランティアとハンドアロマの活動の内容を紹介し、実際に体験してもらいました。普段あまり経験したことがない活動でもあり、とても興味を持つてプログラムを体験してくれました。最後は今年度で卒業する6年生の修了式を行いました。3年生の頃から4年間参加してくれているDクラブ生もおり、毎年この時期になるとさみしい気持ちになりますが、この活動で学んだことを胸に、今後の活動に活かしてほしいと願っています。このDクラブの活動が、次の世代の防災の役にたてれば嬉しく思います。



ココロープ(臨床美術体験)

11月2日、(株)フェリシモより木野内美里さん、湯本京子さんをお迎えし、ココロープ特別版として“Ri n-b!”を体験しました。Ri n-b!”は「臨床美術」をベースとしたアートプログラムですが、今回はオイルパステルを使って絵を描きました。“アート活動を通して、一人一人の違いが美しく輝くハッピーな未来の実現を目指す”というコンセプト通り、ご指導のもと各々が自由に描いた後、お互いの作品を鑑賞、評価し合いました。被災地支援活動にも是非取り入れたいと思います。



佐用町桜まつり

3月30日(日)、恒例となった佐用町桜まつりが、笹が丘ドームにて開催されました。今回もチャコネットのメンバーである関西学院大学の学生さんたちが中心となって、子どもの遊びコーナー(バルーンアートと輪投げ)を担当してくれました。いつもながらこのコーナーは子どもたちに大人気で、子どもたちの笑顔が印象的でした。直前に寒い日が続いていたので、残念ながら桜はまだほとんど咲いてはいませんでしたが、会場内は多くの来場者でにぎわっていました。



3.11被災地交流会

コロナ禍で相互交流がままならず、2020年から西宮野田村間で始まった被災地オンライン交流会。今年は参加地域も参加中学校も3地域5中学校と広がりました。盛岡市立渋民中学校小松山校長は、東日本大震災直後に交流が始まった当時は野田村立野田中教諭で、このオンライン交流会を知って参加を表明。当日は登校日にして全校生徒が見守りました。また、昨年1月に起きた能登半島地震の被災地、七尾市立中島中学校の生徒や保護者が公民館分館から参加しました。中学生たちは災害について語り継いでいくことの重要性を再確認。特に能登の中島中生徒の被災体験に聞き入っていました。そして東日本大震災から15年となる来年にまた交流会をしたいと話していました。

(NVNAD理事 米山清美)



東日本大震災から14年～福島県郡山市訪問～

震災から14年を迎えた3月11日、福島県郡山市で被災者の支援活動を続けておられるハートネットふくしまさんの活動に参加させて頂きました。

ハートネットふくしまさんは30年前に発生した阪神・淡路大震災の際に西宮で支援活動を行われ、その後も数々の災害救援活動においてNVNADが連携させて頂いている団体です。当日は復興公営住宅・東原団地を訪問し、顔馴染みの皆様と追悼行事を行いました。14年経っても、決して過去のことではないと改めて感じる訪問となりました。



Nうごき

NVNADの活動をお知らせするコーナーです。 (2024年8月～2025年3月)

8月 6～8日 能登訪問(石川県)
8～10日 プレーパークinのと(石川県)
23～26日 野田村訪問(岩手県)



9月 19日 災害ボランティア体験講座(西宮市)
20～21日 能登訪問(石川県)
23～24日 能登豪雨災害支援活動(石川県)
27～29日 能登豪雨災害支援活動(石川県)
27日 ボランティアのすすめ(西宮市)



防災の日

10月 6日 近畿ろうきん講座(神戸市)
8日 NVNAD通常理事会(西宮市)
広田コミュニティ委員会(西宮市)
11～13日 能登訪問(石川県)
19日 第2回子ども防災クラブ(西宮市)



11月 2日 ココロープ講座(西宮市)
4日 第6回NVNADシンポジウム(西宮市)
かめのすけ研修会(西宮市)
17日 近畿ろうきん講座(大阪府)
23日 避難所運営訓練(西宮市)
24日 丹波市豪雨10周年イベント(丹波市)



12月 1日 田尻町社会福祉協議会講座(大阪府)
4日 第21回小学生ぼうさい探検隊
マップコンクール本審査会(東京都)
14日 第3回子ども防災クラブ(西宮市)
20～22日 プレーパークinのと(石川県)
22日 久崎市(佐用町)
13日 西宮市ボランティア連絡会講演(西宮市)



ニュース発行時期のお知らせ

この度は、阪神・淡路大震災30周年事業など多くの事業が重なった為、合併号とさせていただきました。発行が遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。また今回の合併号の発行時期の関係で次回ニュース発行時期が前後しますことご了承くださいませ。

Nうごき

NVNADの活動をお知らせするコーナーです。 (2024年8月～2025年3月)

1月	12日	避難所運営訓練(西宮市)
	17日	1.17追悼式生放送(西宮市)
	19日	第7回NVNADシンポジウム(西宮市)
		被災地交流会(西宮市)
27～28日		能登訪問(石川県)
下旬		第21回小学生ぼうさい探検隊 マップコンクール表彰式(東京都)



2月	9日	第8回NVNADシンポジウム(西宮市)
	14～16日	能登訪問(石川県)
	22～23日	大阪マラソンEXPO(大阪府)
	24日	大阪マラソン2025(大阪府)



3月	1日	親子でまち探検(西宮市) 第4回子ども防災クラブ(西宮市)
	9日	3.11被災地交流会(西宮市)
	11日	福島訪問(福島県)
	26日	NVNAD通常理事会(西宮市)
	30日	桜まつり(佐用町)



Nごよみ

今後の予定・講演などのスケジュール

4月	12～13日	能登訪問(石川県)
	17日	関西学院大学ボランティアEXPO(西宮市)
	20日	西宮市制100周年記念式典参加(西宮市)
5月	24日	NVNAD監査(西宮市)
	25日	にしのみや音楽祭(西宮市)
6月	6日	近畿ろうきん全体会議(大阪府)
	15日	NVNAD総会(西宮市)
	7～8日	能登訪問(石川県)
7月	8日	近畿ろうきん講座(大阪府)

～会員・寄付者・募金者のみなさま～

(2024年8月1日～2025年3月31日)

■会員のみなさま

個人正会員：「継続」米山大吾、中村昌泰、松野 博

個人賛助会員：「継続」三浪治子、森 永壽、太刀掛 俊之、秋山洋子、菅田清美

柴田正昭、荒木正澄

■寄付者のみなさま ※ココロープ宛のご寄付も含みます。

米山大吾、鈴木圭子、ヤフー(株)、近畿ろうきん、古塚純枝、桐生智子、岡 秀和
中村昌泰、OSUSO、ソフトバンク(かざして募金)、多田南絵、原田慎吾、
深山操江、土井成三、稻田和彦、古結昇馬、岡村順子、船越果那、坂本卓己、森 純子
川口 晋太郎、田中宏文、田中松姫、堀口祥子、早川しづか、犬伏たづ、田中昭彦
藤本隆太、木村英俊、吉村浩司、小島智子、中谷公平、佐藤明子、井口智洋、泉 正秀
李爽、風 敦博、近藤信哉、井口雅司、松下真由美、桐山博之、大塚黄司、尾崎真平
高石鉄士、河瀬大作、木山剛、田沼純雄、生涯学習応援隊 SO-SO.39、竹田明敬
角谷信広、株式会社日本触媒、戸口裕子、戸口始、戸口京子、おざき まりこ
小野紫苑、谷口ありさ、山本淳代、山本千佳、山口裕子、井川早紀、亀田 寛、内田義晴
吉本 猛、西村桂子、渡邊鶴予、池田昇正、三好一義、新田博美、ウエモト タケシ
三和ホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部

■募金者のみなさま

北村 久美子、逢澤洋子、茨木浩美、街頭募金(能登半島地震)、河村信治、星野典子
河野良子、河野昌弘、上田、渡部慶造、鶴田 美紀代、山本良子、オチアイ ユキコ
日本キリスト教団 川之江教会、サントリーホールディングス株式会社
特定非営利活動法人はらっぱ、東京海上日動火災保険株式会社 Share Happiness俱楽部

■ご協力いただいたみなさま 株式会社フェリシモ、株式会社高山堂、子育ちサポートひびば 西宮市役所、社会福祉法人西宮市社会福祉協議会、 関西学院大学ヒューマン・サービス支援室、被災地の皆さま

皆さまのご支援に感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

なお、お振込みくださった方につきましては、振込名でご紹介させていただきましたのでご了承下さい。

NVNADを支えて下さい

皆様から頂いたご寄付は活動を継続していくために役立てて参ります。何卒ご支援くださいますようお願い申し上げます。

【振込銀行】三井住友銀行 西宮支店 普通 No.7833406 (名義)特定非営利活動法人日本災害救援ボランティアネットワーク

当団体は認定NPO法人ですので、いただいた寄付金は税制優遇を受けることが出来ます。

1月中旬～下旬に寄附金受領証明書を送付させていただきます。

銀行振込ではカタカナ名しか把握できませんので、お手数ですがご住所とお名前をお知らせ下さい。

TEL 0798(34)9011 FAX 0798(34)9022 e-mail : ni shi nomi ya@nvnad.or.jp

編集後記

2025年1月で阪神・淡路大震災から30年が経過しましたが、地震だけではなく、水害や土砂災害などによる被害は、毎年どこかで発生しています。自然災害はなくなることがないという前提で、気持ちを新たに日頃の準備をしていきたいと思っています。 (H・T)

認定特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク [NVNAD]

〒662-0853 兵庫県西宮市津田町3-43 TEL 0798(34)9011/FAX 0798(34)9022

<http://www.nvnad.or.jp/> 発行人：渥美公秀